

社会主義は理想なのか  
～「共産党宣言」に学ぶ

第9回

関東ブロック

# 万国のプロレタリア団結せよ！

## 社会主義的及び共産主義的文獻

司会II前回の8月号では、共産主義者の任務とは何か。プロレタリアートの独裁と日本の「平和革命論」の必然性を明らかにしました。今月号は第3章と第4章を学習します。

私たちは第1章と2章で、唯物史観に基づく社会発展の法則を学習してきました。特に資本主義社会の発展の法則から、プロレタリア革命を担う労働者階級の歴史的使命、それは、プロレタリア階級を支配階級にまで高め、ブルジョアの所有を廃棄することであ

る。この基本原則を理解したうえで、第3章の他党派に対する批判、第4章の反対党に対して共産主義者の取るべき態度について学習していきます。

ではまず第3章についてHさんから討論のポイントを提起してもらいます。HII第3章の内容に入る前に、この第3章の位置づけについて確認したいと思います。マルクスとエンゲルスは1872年ドイツ語版への序文で次のように言っています。「社会主義諸文献の批判(第3章)は、1847年までしかないものであるから、今日ではそれが不十分であることは言うまでもない。

同様に、種々の反対党に対する共産主義者の立場に関する記述(第4章)もまた、基本的な点では今日でもなお正しいが、細かい点では今日すでに時代遅れとなっている。」

しかし学習する意味はないのかというところではありません。書かれてから170年経っている今日、ここに書かれている「社会主義」と称する諸党派は確かにこの世から消え去っていますが、プロレタリア階級の立場を明らかにすること、マルクス主義の立場から批判することは、今日の私たちに多くのことを教えてくれています。学ぶ

## ◆みんなの学習講座

シャルル・フーリエ



ロバート・オーウェン



サン・シモン



に値する章だということを事前に述べておきます。

さて、第1節では、反動的社会主義を3つあげています。a 封建的社会主義、b 小ブルジョア的社会主义、c ドイツ社会主義または「真正」社会主義。これらは、社会主義を名乗りながら歴史の回転を逆転させようとする

る党派であるとして、「反動的」という冠をつけています。

第2節では、保守的社会主義またはブルジョア社会主義について、ブルジョアジーの支配をそのままに、資本主義の生産関係をそのままに、ブルジョアの所有と搾取をそのままに、資本主義の弊害のみを取り除き社会を改善しようとする。その代表格はブルードンであり彼の考え方は私有制度を廃止しようと考えない、革命運動を嫌い行政的改善だと非難しています。

第3節は、『空想より科学へ』でおなじみの空想的社会主義者のサン・シモン、シャルル・フーリエ、ロバート・オーウェンについて、彼らが資本主義の矛盾を認識し、それを解決しようとした功績について評価するとともに、その限界を解明し批判しています。その限界とは何か、彼らの体系は「プロレタリア階級とブルジョア階級との闘争の最初の未発達な時期にあらわ

れ」そのため、「プロレタリア階級の側に、歴史的自発性を、独自の政治的運動を、全く認めない」という不十分さがあつたと批判しています。

以上が第3章の概要ですが、これらの思想の中で、第2節でブルードンを厳しく批判しています。ブルードンの考え方は簡単に言うと、生産手段のブルジョアの私有を非難するが、資本主義体制はそのままに、資本主義の悪しき面だけを改善しようとする、社会改良主義でした。この考え方は今日でも形を変えて影響が出ているのではないのでしょうか。

### 階級闘争論が抜け落ちている 社会改良主義

KIIもう過去の話になるが、1960年代、旧日本社会党内に構造改革論が展開された。向坂逸郎は『日本革命と社会党』で次のように批判しています

ね。「構造改革論者は、このように生産関係(構造)に介入し、これらの部分的な変革を通じて、しだいに搾取の根幹を掘りくずしてゆくところから、われわれはこれを『構造的改革』と呼ぶ、と言っているが、部分的変革のたし算で革命が来るのであるからこの考えには、量から質へという飛躍の考えがない」「この考えでは、実際に存在する階級対立という根本的事実が無視され・・・階級闘争と力関係を無視したなくずし革命になる」。

革命とは、資本主義社会そのものの内部矛盾という客観的条件と、資本家階級から権力を奪取するという主体的条件が成熟し、権力奪取(革命)し成し遂げられるのだ。この「構造改革論には改良主義の日和見主義が忍び込みうる心配がある」と予見し徹底した批判を展開しました。

司会Ⅱ この構造改革論ではないですが労働者階級の主体性強化と無関係に資

本主義国家内の改良的政策を述べる人たちがいいます。一昨年(の1月)トマ・ピケティ(フランスの経済学者)が来日して話題になりましたが、彼の理論を知っていますか。

AⅡ トマ・ピケティの理論は、長期的にみると、資本収益率( $r$ )は、経済成長率( $g$ )よりも大きい。資本から得られる収益率が経済成長率を上回れば上回るほど、それだけ富は資本家へ蓄積される。そして、富が公平に分配されないことによって、貧困が社会や経済の不安定を引き起こす。この格差を是正させるために、累進課税の富裕税を課し、低所得者、特に若者の税率を引き下げろ、と言っているんだよ。

TⅡ 富の再配分のことを言っているんだと思うが、フランスでは、2013年、この富裕税最高75%を高額所得者に課したんだ。ところが高額所得者の海外脱出が続発、経済再生にはつながらないという批判が高まり、実施か

ら2年で廃止してしまった。

ブルジョアジーはプロレタリアからもつと搾りたいと思っているのだから、この政策を認めるとはならなかった。空想的社会主義の現代版だ。

MⅡ そこなんだよ。第1章と第2章で学習してきただろう。「資本主義社会は敵対する二天階級の階級闘争」であり「労働者革命の第一歩は、プロレタリア階級を支配階級にまで高めること、民主主義をたたかい取る」という階級闘争論が、トマ・ピケティには抜けているんだ。

司会Ⅱ また、最近ベーシックインカムがマスコミにもあげられ盛んに議論されていますが知っていますか。

MⅡ ベーシックインカムってなんだ？

AⅡ 一言でいえば、国民の最低限度の生活を保障するため、国民一人ひとりに一定の現金を給付するという政策構想のことです。生存権保証のための現金給付政策は、生活保護や失業保険の

## ◆みんなの学習講座

一部扶助、医療扶助、子育て養育給付などのかたちです。多くの国で実施されていますが、ベーシックインカムでは、これら個別対策的な保証ではなく包括的な国民生活の最低限度の収入を現金で補償することを目的とすると言われています。

例えば、国民に一律7万円給付するというものです。その代わり、年金が減らされる。生活保護費も廃止する。

この制度は、少子高齢化が進んでいる資本主義社会では、民主主義的観点から格差社会で貧富の差が広がれば、税金の再配分論から自然に出てくる発想だと、スイスのベーシックインカム論者は言い、国民投票で是非を問いました。賛成は23%で否決されました。

なぜ否決されたかと言うと、政府や財界からは、「財源不足」や、「労働意欲の減退」が危惧され、多くの国民も外国からスイスへ低所得者がなだれ込んできて財政破綻は目に見えていると悟

ったということです。そもそもこのベーシックインカムの発想は、1970年代ヨーロッパで議論が始まり、2000年代になって世界、日本でも話題に上るようになった。これとは逆な政策を導入している国があります。産油国カタルです。何が逆かという点、現金は給付せず豊富なオイルマネーで国民は所得税がかからない。医療費、電気代、電話代、教育費も無料です。

社会主義的政策にも見えませんが、オイルマネーが尽きたらこの政策も破綻すると危惧されています。このベーシックインカムは自由主義・資本主義経済で行うことを前提にしている話でしょう。資本主義的改良主義の発想ではないですか。

○II 全国民に一律に生活できる費用を配ろうということは、資本主義の段階で認めるわけではない。

MII 相手が認めるわけではないしそれが最終的な目的のような印象を与えてしま

う。本来社会主義革命によって権力を奪取しなければ達成できないことを、資本主義体制の中でできるかの如く幻想を与えてしまっただ。

TII オランダでは部分的に導入しようとしている。この試みは今後も議論になるようだから早急な結論は出さないほうが良いでしょう。

### 種々の反対党に対する

#### 共産主義者の立場

司会II 討論が白熱してきましたが、第3章はこのくらいにして第4章へ進みたいと思います。Hさん第4章の概要をお願いします。

HII 第4章では、それぞれの国の政府に対して反対の立場をとっている「反対党」に対して、共産主義者が取るべき態度を述べています。ここであらう

「反対党」とは社会主義政党だけのことではありません。国によって政治的

経済的条件が違えば、社会変革の方法運動の形態も違うものであり、そのような諸条件の上に共産主義者はいかなる党派を支持するか、いかなる変革を押し進めるかを明らかにしています。

共産主義者は「労働者階級の当面する目的や利益を達成するために闘い、現存の社会的並びに政治的狀態に反対するあらゆる革命運動を支持」し、「すべての国の民主主義政党の結合と協調に努力」すべきであると言っています。

それは、当時のヨーロッパの政治的経済的狀況の中では、プロレタリア階級はまだ十分成長しきれていない。だから、ブルジョア革命やブルジョア民主主義の闘いを推し進め、プロレタリアの階級的成長を促すことが必要である。そして、プロレタリアとブルジョアの二大階級による階級闘争をつくり出し、プロレタリア解放のためのプロレタリア革命を成し遂げるためである

ということですが。そして、そのためには、「共産主義者は、現在の運動の中にあつて、同時に運動の未来を代表する」と書かれてるように、現実主義に陥らず革命運動の展望を持つこと、つまり、理論的確信を持つことが要求されるということです。

### 支配者に反対する党と

#### 協力関係を結ぶ

司会 II 共産主義者の態度ということでは、その時代その国の支配者に反対する党と協力関係を結ぶという。その党とは社会主義政党ではない。ドイツの場合はブルジョアとも協力しなければならぬと言っている。この辺の理解はいかがですか？ あるいは、現在も同じような状況が現れているのかどうか。M II 今の日本はそんな状態ではないだろう。

司会 II そう、日本は資本主義社会となつていますね。ここで言っているのは、ドイツはまだブルジョア革命が成し遂げられていない絶対主義の国であり、イギリスやフランスは進んだ資本主義の国である。このような違いはあつても、共産主義者はその国の政府に対して反対する党と協力すべきだと言っています。

M II それは行動の協力であつて思想的なものではないだろう。

O II 「宣言」は「階級闘争の歴史である」という言葉から始まっていますね。この時代はまだプロレタリア階級が成長しきれていないというところからだと思います。大工業の発展で労働者階級は増えたけれども、まだまだ階級的に成長しきれていない。だから民主主義も十分ではないということで、民主主義を求める政党と協力して、民主主義を促進させて、そのことによってブルジョアとプロレタリアの階級対立は激



化する。民主主義が発達すると、階級対立は激化するということはわかりますか。

### 民主主義の発達と階級意識

A II 民主主義は発達することによって労働者階級の意識が成長する。今まで虐げられていた労働者が要求するようになる。階級意識が芽生えるということですよ。

M II 日本の労働者の階級意識はどうなんだ。安倍一強支配で国民を騙して平

和と民主主義を脅かしているのに、連合は動かない。労働者階級の反撃の機運は見られない。どうすればいいんだ。A II そうとも言えない。安倍一強支配の終わりの始まり、潮目が変わったとも見える現象がある。7月に闘われた東京都議選で自民は大敗北、数の驕りから安倍や閣僚の相次ぐ失態で、内閣支持率の30%代を割り込み、安倍政権に鉄槌を下す時がきた。今我々が推し進めている野党共闘へ弾みをつける情勢に変わってきたのではないか。

平和と民主主義を守るたたい、反基地、脱原発のたたい、職場の反合理化闘争を強化する以外にない。

### 万国のプロレタリア団結せよ！

司会 II マルクスは最後に「万国のプロレタリア団結せよ」と締めくくっていますがどうとらえたらいいですか。

O II 現在の世界資本主義の生産諸力や

経済のグローバル化は、「宣言」の時代と比べると量質共に格段の差があります。唯物史観の考え方は経済が土台ですから、日本だけで革命が達成できるかと言えばそれは難しいでしょう。

しかし、第4章で「共産主義者は現存の社会的ならびに政治的狀態に反対するあらゆる革命運動を支持する」と言っているように、それぞれの国と地域、政治状況の中で「労働者革命の第一歩は、プロレタリア階級を支配階級にまで高めること、民主主義をたたかい取ることを実践することだと言っている。これは日本における平和革命をめざし、運動を推し進め、世界の労働者階級との国際的団結をも強めねばならないと言っているのです。

司会 II この学習講座では、『共産党宣言』の1章から4章までを9回に分けて学習してきました。次回は、「宣言」の土台となっている思想について掘り下げていきます。